

平成26年度 第3回宝塚市立図書館協議会 会議録

1 開催日時及び場所

平成27年2月12日(木) 午前10時～正午
宝塚市立中央図書館 研修室

2 出席者

委員(7名) 梓委員、上野委員、柳委員、中西委員、梶原委員、
高橋委員、吉本委員
事務局(11名) 社会教育部長(大西部長)
中央図書館(坊館長、森副館長、藤野係長、近藤係長、
永尾係長、西川係長、栗井)
西図書館(西田館長、田野係長、藏野係長)

3 傍聴者 なし

4 協議経過等

- [1] 開会あいさつ(社会教育部長)
- [2] 議事

(1) 平成26年度事業報告について

(事務局) [①～⑤について一括説明]

① 今年度の貸出し状況(冊数及び人数)について(資料①参照)

- ・貸出人数、貸出冊数とも、有料郵送及び無料郵送の分は除かれています。
- ・なお、今年度7月から西図書館所蔵の音楽CDの貸出が開始されており、今年度の統計には、その利用数が含まれています。
- ・今年度(平成26年4月～平成27年1月)の貸出人数は、51万7,025人(全館合計)で、前年度同期間と比較して、2.1%の増、貸出冊数は166万449冊で、1.2%の増となっています。
- ・貸出冊数を各館ごとに見ると、西図書館は音楽CDの貸出もあって2.0%の増となっています。また、山本南分室は、平成23年7月の開室以来、順調に伸びており、今年度から、土曜日・日曜日の午前中も開室したことにより、5.4%の増となっています。

② 返却ポイント返却数について（資料②参照）

- ・今年度、設置場所を1カ所変更していますが、設置数(合計7カ所)に変更はありません。
- ・設置場所の変更についてですが、中央公民館の利用停止に伴い、平成23年6月から中央公民館に設置していた返却用ブックポストを、安倉地区に返却場所が無かったため、平成26年10月に総合福祉センター(安倉西2丁目)に移設しました。
平成26年10月から平成27年1月までの4カ月間の総合福祉センターでの利用状況は、かなり低く、周知等を図る必要があると認識していますが、今後の利用状況も見て、設置場所の適否等について判断したいと考えています。
- ・なお、旧中央公民館の近く、駅周辺で代替の場所に返却ポイントを設置してほしいという要望については、できるだけ早急に対応したいと考えています。
- ・返却ポイント7カ所への返却冊数は、今年度(平成26年4月～平成27年1月)、合計5万4,079冊で、前年度同時期(5万2,579冊)との比較では、1,500冊の増となっています。

③ 雑誌スポンサー制度の応募状況について（資料③参照）

- ・昨年10月から当該制度を開始し、平成27年1月末現在で、中央図書館、西図書館合計して、雑誌数にして23誌、スポンサー数としては8者が応募しています。
- ・スポンサーの内訳としては、コピーサービス業者、歯科医院、結婚相談所、動物病院、法律事務所、ヨガ教室、リサイクル業者、医院(外科)の8者となっています。
- ・制度開始当初には、応募者数が少なければ、商工会議所等にも依頼する方法も検討していましたが、市の広報や新聞に掲載された記事を見て、一定数の応募者が現在ありますので、特別な働きかけ等は今のところ予定していません。
- ・なお、来年度に向けて、新たに応募したいという話も、数者聞いています。
- ・今後とも、制度のPRに努めていきたいと考えています。

④ 利用者アンケートの集約について（資料④参照）

(実施について)

- ・利用者アンケートについては、これまで平成20年度、平成21年度、平成22年度、平成23年度と継続して4回実施済ですが、今回の実施は、3年ぶりで5回目となります。今後も、利用者のニーズ等を把握するため、3年に1回程度の実施を行いたいと考えています。
- ・今年度は、10月12日から25日までの2週間の期間で実施し、各図書館、分室、移動図書館ごとにアンケートを行いました。11月8日を提出期限としていましたが、期限後にも提出があったものは集計に含めています。

- ・なお、「自由意見」については、現在集計中で、今回の報告には含まれていませんが、集約ができた段階で、別途報告させていただきます。
- ・今後、「自由意見」と「集計表」とを合わせて、図書館ホームページで公表する予定です。

(回収率について) (P 1)

- ・回収率は、中央図書館が35.6% (前回34.0%)、西図書館が31.4% (前回37.0%)、中山台分室が73.2% (前回71.3%)、山本南分室が50.6% (前回29.1%)、移動図書館が33.5% (前回29.2%) となっており、山本南分室の回収率が大きく上がって、約20%増になっています。
- ・全館の配布枚数合計5,195枚に対して、全館の回収枚数1,962枚で、全館の回収率は37.8%になっています。

(総合評価について) (P 1)

- ・総合評価については、「各館単位」と「宝塚市の図書館全体」の2本立てになっており、満足度に関する選択肢のうち、「満足」と「やや満足」の合計数値(注:5段階評価の5と4の評価の合計)を、「満足している状況」として見えています。
- ・今回、西図書館以外の総合評価は、前回よりも上がっています。
- ・西図書館での総合評価が5%下がって85%になっていますが、現場の認識としては、これまで音楽CDの貸出等のサービス向上に努めてきているので、少し意外に感じられますが、西図書館の利用者からのご意見(資料④-2)の中で、接遇面に関する厳しい意見等もあがっていますので、その点は見直す必要があると思っています。なお、今回の結果について再度分析し、今後とも、サービス向上に努めていきたいと考えています。
- ・今回は、中央図書館と西図書館の「各館の総合評価」が85%で同じ率になっています。

(質問項目〔項目B〕〔図書館サービスに対する評価に関して〕に関する「満足している状況の割合」の前回との比較について) (P 2~P 3)

- ・前回調査と比較して、大きな増減のあった質問項目について見てみると、中山台分室の「図書館サービスの取り組みへの評価」については、76%から61%へと、15%下がっています。
- ・中山台分室については、平成22年4月から地元の中山台コミュニティに業務委託し、平成23年4月からは開室時間を拡大し、土曜日・日曜日の午前中も開室しています。なお、自由意見欄については、現在集計中ですが、開室時間についてももう少し増やしてほしいという意見もありますので、今後、地元とも協議していきたいと考えています。
- ・山本南分室の「開室時間は利用しやすいか」については、41%から54%へと、13%増加していますが、これは、平成26年4月から開室時間を拡大し、土曜日・日曜日の午前中も開室していることも反映しているものと認識しています。
- ・移動図書館すみれ号の「調べものに役に立っているか」については、49%から63%

へと、14%増加し、「予約制度に満足しているか」については、61%から75%へと、14%増加していますが、各々、インターネットでの予約の利用が拡大しているものと認識しています。

(質問項目〔項目A〕〔利用者自身に関して〕の集約について)

(P15、20、25、30、35)

- ・全館を見て、年齢層は「60歳代」、「70歳以上」の高齢者が多く、利用券はほとんどの方が持っています。利用頻度としては、「週1回程度」と、「2週間に1回程度」を合わせて70%を超えており、その次には、「月1回程度」が8~9%で続いています。また、自宅からの最寄駅を見ても、最寄駅が図書館に近い利用者の利用率が高くなる傾向を示しています。

(図書館が最優先で取り組むべき課題〔1つだけ選ぶ〕について)

(P19、24、29、34、38)

- ・全館を見て、今回も前回と同様に、「図書・資料の充実」が最も多く、次いで、「開館時間延長」の順になっています。
- ・「開館時間延長」については、中央図書館と西図書館では、夜間開館に対する要望が多い。また、中山台分室や山本南分室では、現在、平日の開館時間は午後の時間帯なので、午前中の開館に対する要望が多くあがっているものと思われます。

(移動図書館の巡回希望について)(P4)

- ・移動図書館については、現在25カ所を巡回し、運行しています。
- ・巡回希望場所については、今回のアンケートに、質問項目として新たに加えた項目ですが、合計24カ所の希望があがっています。場所的には、阪急電車やJRの駅前付近のポイントもあがっており、すべてを実現することは困難だと思いますが、今回の要望も踏まえて、今後検討していきたいと考えています。
- ・JR中山寺駅付近の要望についてですが、この地域は図書館サービスの希薄な地域であると認識しています。

(「図書館サービス向上の新たな取り組み」に対する意見について)(資料④-2参照)

- ・今回のアンケートに、質問項目として新たに加えた意図としては、これまでにないサービスということで、例えば、電子書籍に対する要望や、自動貸出機の設置等の「先進的取組等」があがってくるのではないかと想定していましたが、この質問項目に対する記載は、「現在実施できていないサービス」に対する要望や意見がほとんどで、現在集約中の「自由意見」欄の記載内容とも重なっています。

⑤ ブックスタート事業に関するアンケートの実施について (資料⑤参照)

- ・これまでの各健診の受診率も踏まえて、アンケートの調査対象は、平成26年12月～平成27年2月の間に、1歳6か月児検診と3歳児検診を受診する赤ちゃんの保護者約300名としました。
- ・受診対象者への検診案内の郵便物に、アンケート用紙を同封してもらうことと、健診時にアンケート用紙を回収してもらうことを、健康センターに依頼しています。
- ・アンケート内容は、1歳6か月児の保護者へは、ブックスタート事業内容に対するものですが、3歳児の保護者へは、絵本の読み聞かせを継続しているかなどの内容になっています。
- ・集計結果につきましては、整理できしだい報告したいと考えています。

(委員からの主な質問・意見等及び事務局からの説明)

[議事(1)について]

[移動図書館車の巡回場所について]

(委員)

- ・利用者アンケートで、移動図書館車すみれ号の巡回場所の希望をとられています。今後、巡回場所を増やすことを考えているのか。

(事務局)

- ・現在、25か所のポイントを巡回していますが、あと1か所ぐらいは平成27年度に増やす方向を考えています。
- ・巡回ポイントを定める場合の最大のポイントは、移動図書館車を止める場所の設定です。巡回の希望があっても、駐車場所が無いと巡回できないし、逆に、駐車場所があっても希望のない地域には巡回できません。
- ・中山寺の駅前付近は、図書館サービスの希薄な所なので、その点も踏まえて検討したい。

[HP(ホームページ)のスマホ対応について]

(委員)

- ・西図書館利用者からのご意見(資料④-2:P5)の中で、「HPのスマホ対応をお願いしたい。」という記載があるが、現状は対応できているのか。

(事務局)

- ・現状は対応できています。ご意見を記載された方が十分理解されていないか、誤解されている部分があるのではないかと考えています。
- ・使い方等についての質問があれば、説明していきたいし、利用者にとって使いやすい方法についても研究していきたい。

(2) 利用者の意見等について (資料⑥⑦参照)

(事務局) (説明)

- ・「広聴カード」(資料⑥)によるご意見は1件で、中央図書館閲覧室の張り紙(異臭に対する利用者へのお知らせ)についての考え方等に対するご意見です。
- ・「御意見箱」(資料⑦)については、住所と名前の記載があるものについてのみ、ご本人に回答しています。
- ・中央図書館に対しては、4件で、図書館に購入してほしい本のリクエスト用紙や調査相談室の地名辞典に対する要望、絵本の購入希望、CDの貸出についての要望、喫茶室に対する要望などです。
- ・西図書館に対しては、1件で、旧中央公民館に設置していた返却用ブックポストが、平成26年10月に利用停止になったことに伴い、旧中央公民館の近辺に返却場所を設置してほしいという要望です。
- ・詳細はご覧いただきたいと思います。

(3) 情報提供について (資料⑧⑨参照)

(事務局) (説明)

- ・情報提供につきましては、「広報たからづか」掲載分(資料⑧)と、「新聞記事等の関連記事」(資料⑨)を提出しております。
- ・広報たからづかでは11月号で、「第4回読書講演会」と「第3回聖光文庫講座」について、12月号では、「聖光文庫の展示」と「西図書館開館20周年を迎えて」の関連記事を掲載しています。
- ・新聞記事等では、さまざまな記事をあげていますが、取捨選択していただければと思っています。
- ・詳細はご覧いただきたいと思います。

(委員からの主な質問・意見等及び事務局からの説明)

[議事(2)(3)について]

(特になし)

(4) 教育委員会事務執行等評価表について (資料⑩参照)

(事務局) (説明)

- ・各教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、自己点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するとともに、公表することが義務付けられており、本市でも、平成20年

度以降、この評価が実施されています。

- ・今年度の評価対象は、決算の処理が完了した「平成25年度事業」です。
- ・教育委員と外部評価者のヒアリングの結果、「ソフト面のサービス拡充は評価できるところですが、ハード面については、他の行政施設との複合施設として検討するなどの視点も引き続き必要である。また、ハード面の制約を踏まえると、学校図書館の一般開放も検討すべきと考える。また、司書自らが学校や福祉施設などに出向くことにより、充実したサービスの提供ができないか。」との意見が出されています。
- ・「子どもの読書活動推進計画(第2期)」の中で、関係機関との連携があげられており、学校図書館との連携についても、できる限り行っていますが、学校図書館の一般開放に関しては、教育委員会としても、今後の検討課題だと認識しています。
- ・また、司書が外部に出向くことについては、現在の人的体制で可能かの検討や、各施設の関係者との協議が必要だと考えています。
- ・施策の取組・活動状況のうち、平成25年度の実施状況としては、「金曜日の開館時間延長」を本格実施し、「市のイベントへの移動図書館車の参加」や「聖光文庫文化講座の開催」により、引き続き、図書館のPRにも努めました。また、これまで年1回、利用者向けにリサイクル本を配布していましたが、中央図書館に、新たに「常設のリサイクル本コーナー」を設置しました。
- ・指標についてですが、まず、「市民1人あたりの貸出冊数」に関しては、「日本図書館協会」の「国民1人あたりの年間貸出冊数8冊」という基準を目標値として設定しています。なお、実績の数字については、相互利用による他市在住者を除いた数値ですが、実績は7,929冊で、目標値8,0冊に対して、99.1%となっています。次に、「図書館利用者登録数」に関しては、人口の30%(68,347人)を目標値としています。実績が58,865人で、登録率は25.8%となっており、前年度より0.1%増となっています。なお、利用者登録数は、3年間の間に利用のあった方をカウントしています。
- ・「ホームページの開設と更新」については、ホームページアクセス件数が、1,118万5千件余で目標値(前年度実績の5%増)に対する達成率は99.5%で、前年度実績の4.5%増となっています。
- ・全体の総合評価としては、「魅力ある図書館づくり」(中央図書館と西図書館の管理運営事業)、「ホームページの開設と更新」(中央図書館管理運営事業)とも、「A評価」で、妥当と判断されています。

(委員からの主な質問・意見等及び事務局からの説明)

[議事(4)について]

[学校図書館の一般開放について]

(委員)

- ・先進的自治体も含めて、学校図書館を一般開放しているところがあれば教えてください。

(事務局)

- ・神戸市の学校施設開放事業の中で、市民図書室として、指定された小中学校の学校図書館が市民に開放されています。
- ・本市では、西谷中学校の図書室が市民に開放されており、蔵書に関する購入要望も受け付けています。

(委員)

- ・西谷中学校の場合、利用者のほとんどが地元の顔見知りの方で、地域の協力体制があり、安全が確保されているので実施できていると思う。
- ・学校内の安全を確保するため、防犯カメラを設置する状況になっているのに、誰でも学校に入れるということは慎重に検討してほしいと思う。

(委員)

- ・移動図書館車を学校に巡回してはという話もありましたが、地域の人が入ってくる場合、やはり安全性の確保が課題となる。
- ・一般開放については、住民同士がお互いに顔見知りである地域や、小規模な町村であれば可能かもしれないが、本市ではなかなか難しいと思う。

(5) 平成27年度事業計画について

(事務局) (説明)

① 図書購入費の状況について (資料⑩参照)

- ・平成27年度は、前年度と同額で、両館合計3700万円です。館別では、中央図書館2,000万円、西図書館1,700万円で、平成25年度から3年間同額となっています。
- ・予算の執行に際しては、平成26年度に消費税の税率が5%から8%に改定されたことに伴い、購入冊数等に影響しているものと認識しています。
- ・なお、(財)兵庫県市町村振興協会からの「図書支援事業交付金」(宝くじ収益金の配分)に伴う図書購入については、平成21年度から平成26年度まで行われましたが、今年度27年度からは交付金は廃止されています。

(注:平成26年度の図書支援事業交付金は、378万6千円です。)

② 平成27年度予算案について（資料⑫参照）

- ・ 経常経費分「図書館管理運営事業」としては、中央図書館が6,698万1千円、西図書館が2,639万6千円となっています。
- ・ 中央図書館では、前年度と比較して、55万3千円の減となっていますが、これは、旧松本邸の天井の修繕が必要なため、他の事業も含めた全体枠の中で、「桜ヶ丘資料室維持管理事業」の予算を62万円増したことによるものです。
- ・ 「中央図書館管理運営事業」の内訳として、前年度より減としたものが、消耗品費24万8千円減、備品修理費20万円減、施設修理費163万円減等で、前年度より増としたもののうち最も大きいものが備品購入費で132万3千円の増となっています。
- ・ 修理費を減としたのは、主な施設修繕等が今年度に完了する予定なので、経常的な施設修繕等に限定して、来年度は計上したことによるものです。また、備品購入費を増額したのは、老朽化している書架等の更新を予定していることによるものです。
- ・ 「西図書館管理運営事業」では、前年度と比較して100万1千円の増となっていますが、これは、「清掃委託」及び「受付・保安・警備等委託」について、平成27年度が長期継続契約の初年度（3カ年契約）となる委託契約を行う必要があり、契約行為を行うに際して、設計金額で予算計上しているためです。なお、増額については、社会教育部内での調整によるものです。
- ・ 前年度より減としたものが、手数料57万8千円減、備品購入費40万8千円減等で、前年度より増としたものが、備品修理費38万円増、施設修理費20万6千円増等となっています。
- ・ 手数料については、前年度に計上していた開館20周年関連事業の手数料を減額しています。備品購入費については、全体枠の中で調整した結果、減額していますが、蔵書数の増に伴い、書架については可能な限り増設していく予定です。
- ・ また、備品修理費については、受け付けカウンターを修理予定で、施設修理費については、図書館の建物に設置している返却ポストに関して、建物の外に雨除けのひさし等を設置予定のため増となっています。
- ・ なお、新年度からの新しいサービスとして、「西図書館を受け取り場所とする予約本の時間外引き渡し」を実施する予定で、「受付・保安・警備等委託」の契約手続きを進めています。
- ・ サービス内容としては、図書館の閉館後（通常開館日は午後6時以降、延長開館日〔毎週金曜日と7月・8月の土曜日〕は午後7時以降）から午後9時前までの間に、また、定期休館日（水曜日）は、午後6時以降、午後9時前までの間に、西公民館受付カウンターで予約本を受け取ることが可能となるものです。

- ・なお、新年度予算とは直接の関連はありませんが、今年度の曝書期間中（注：年1回の特別整理期間〔中央図書館は2月11日～2月20日、西図書館は2月27日～3月6日〕で、図書館は休館中）においても、利用者へのサービス向上を図るため、予約本については、図書館入口で、利用者へ受け渡しを行う予定にしています。
- ・また、実施計画で、来年度の新規事業として、「中央図書館の外壁工事」が採択され、平成27年度は工事設計委託料として、101万円が予算計上されています。なお、実際の工事は、平成28年度以降の予定になります。

(委員からの主な質問・意見等及び事務局からの説明)

〔議事(5)〕

(特になし)

(6) 図書館サービス等についての意見交換等について

〔学校図書館との連携等について〕

(委員)

- ・教育委員会から学校図書館へ非常勤の司書が配置されて、学校図書館の利用も増えており、また、子どもの読書活動の充実を図るため、市立図書館も活発に活動されていると実感しています。
- ・教育委員会も「うち読」(家で読むこと)のすすめを行っており、市立図書館の活動と合わせて、子どもの読書活動が推進されています。
- ・学校と市立図書館との連携を、今後も密にしたいと思っています。

〔利用者アンケート結果を見て感じたこと等について〕

(委員)

- ・アンケートの結果を見て、日頃利用者が思っていることが、意見として出されていて参考になります。
- ・利用者の問い合わせに対する評価や、職員の応接態度等について、利用者の方は高い評価をされていて、日頃の努力の結果だと思います。
- ・私自身も、中央図書館、山本南分室、移動図書館すみれ号を利用していますが、職員の方の対応も親切で、感謝しています。

〔ブックスタート事業について〕

(委員)

- ・数年前から、ブックスタート事業が実施されており、子どもの読書活動推進につながっていくものと思っています。

- ・事業についてのアンケート用紙は、健診の時に回収だけをするという形ですか。
- ・健診の待ち時間など、子どもが退屈する時もあるので、例えば、絵本と手遊びのコーナーを作るとか、利用券の登録が当日できるとか、先につなげていくようなアプローチがあれば、もっと広がっていくのではないかと。
- ・保護者にとっても、育児について悩む時期なので、何か一助になる形ができればと思う。
(事務局)
- ・保護者がアンケート用紙に事前に記入したものを、健診時に回収し、図書館で集計する形です。各健診の案内を送る時に、図書館関係のチラシ等を、健康センターと連携して同封しています。
- ・先につなげていくようなアプローチについては、今後の検討課題と考えています。今のところ、事業を応援してもらっているボランティアの人数が、手一杯の状況ですが、できるだけ増やしていきたいと思っています。

[時間外の予約本の受け取り等について]

(委員)

- ・予約本の受け渡しについて、時間外に、西公民館での受け取りができることの説明がありました。市広い発想に基づく工夫で、サービス向上につながると思います。
- ・ブックスタート事業についても、充実した活動だと感じています。
- ・私は、図書館でのボランティア団体の活動に参加していますが、その活動の中で、図書館だよりのCD化についても、新年度に向けて検討中です。

[利用者アンケート結果を見て感じたことについて (蔵書構成、登録率等)]

(委員)

- ・利用者アンケートの結果を見て感じていることですが、「利用者のニーズ」と「蔵書構成」とが、一致していない面があるのではないかと。
- ・利用者のニーズは、年齢層の割合等によっても変化していくし、ニーズの変化を把握して、選書に生かしていくのが課題だと思う。
- ・例えば、利用のあった類別の割合と、蔵書に占める類別の割合を比較する方法もあるが、その点を意識して選書を行うと、より利用者ニーズに沿った蔵書構成になると思う。
- ・好きな作家の蔵書が古いという利用者の意見がありましたが、蔵書について、出版されてからの経過年数や平均蔵書年数等を調べて、他市と比べて年月が経ちすぎている点が無いか等の検討も必要ではないかと。
- ・次に、本市の利用者の登録率は25%で、政令指定都市の平均と同程度ですが、市民1人当たり貸出冊数については、政令指定都市の平均よりも高い数字だと認識しています。
- ・本市の現状を踏まえると、登録率を向上させると、利用ももっと増えると思われるので、登録されていない方について、何故登録されないかの原因を考える必要がある。

(事務局)

- ・「利用者のニーズ」と「蔵書構成」の関連については、問題意識は持っていますが、なかなか両者をリンクできていない状況です。現状、蔵書の分類別の利用統計は取っていますが、年齢層別の利用統計は把握できていません。
- ・限られた予算の中で本を購入していくには、実務上、理想通りにできていない面があることは認識しています。
- ・なお、委員の御指摘については、館内の「図書選定委員会」でも検討したいと思います。

(委員長)

- ・リクエスト（注：利用者の図書館への蔵書購入希望）から見ていけば、ある程度、年齢層を把握できないか。
- ・大阪で、会社が多い地区の図書館の事例ですが、会社勤めの人のために、商業・経済・法律関係の蔵書を多くして、パソコン機器を置いて、そこで仕事の準備等もできるような配慮をしているところがある。
- ・蔵書の整備についても、人口分布の特長や市民の特長がわかれば、よりやり易いと思う。また、その点が認識できれば、望ましい状況に近づけるのではないか。

(事務局)

- ・宝塚市民の特長について、はっきりとは把握できていない中で、実務を行っている面もあるが、市民の特長を把握することは重要だと思う。
- ・例えば、60歳以上の男性が、ある種の本をよく借りているとかいうことが特定できれば、選書の参考になると思うが、現状、なかなかしぼりきれていない。
- ・購入予算の配分にも関連してくるが、特定の部分に集中して傾斜配分した場合、多くの利用者が納得できるのかという問題があると思う。
- ・例えば、人気のある小説について、予約が100人待ちなので、その状況をカバーするために多くの複本を買うという方法もあるが、全体予算のバランスも考えながらの購入数とせざるを得ないのが現状である。
- ・また、人口構成比率の高い高齢者で、60歳以上の方が小説をたくさん読んでいる場合、その部分に重点配分していいかの検討も必要である。
- ・登録率の指摘についてですが、本は買うものと思われている方は別ですが、図書館は近くで足を運べる距離にあつてこそ、利用されるものと言われています。
- ・本市の図書館施設は2館2分室と限られており、ハード面の整備が望まれるところですが、既設の公共施設等の有効活用によるサービス拠点の整備を検討しています。
- ・他市の例ですが、茨木市では多くの図書館施設が整備されていて、約1キロメートルの範囲に図書館施設があるが、予想よりも貸出は伸び悩んでいると聞いています。
- ・本市でも、利用していない人の実態を知る必要があると思い、中央図書館の近くの清荒神1丁目の登録率（本市の場合、3年間に1回でも利用があった方をあげている。）を調べてみると、人口の56%が利用しているが、残りの44%は利用してなくて、図書館が近くにあつても、行かないという状況は生じている。今利用していない市民に、利

用してもらうためにも、魅力ある図書館づくりに努めていきたいと思っている。

(委員長)

- ・利用されていないのは何故かを分析することは、これからのサービスを考えていく際に重要であると思います。

(委員)

- ・本を借りること以外の用途で、例えば、自分の作品（絵画や写真等）を見てもらうための展示や、その他の文化活動・集会活動等の行事で、気軽に利用できるようにすれば、無料で利用できる図書館施設の利点をもっと生かせると思う。

(事務局)

- ・登録率は図書館で本を借りる人の割合ですが、図書館へ来館して本を借りないけれど、閲覧室等で閲覧して帰る人もいますし、開催行事等のためだけに来る人もあり、図書館の場所としての存在意義を考える必要があると思います。

[利用しやすい図書館とは]

(委員)

- ・図書館の利用について、これまでの自分自身を振り返って見ると、高校生の頃は時間的な余裕がなかったし、学校図書館も閉架書庫への本の収納が多くて利用しにくく、ほとんど利用しなかった。会社勤めをした時も、平日は夜8時か9時まで仕事で忙しく、週末しか時間がなくて、電車で図書館まで行く距離だったので、なかなか行きにくかった。
- ・出産してからは、子どもをベビーカーに乗せて、駅まで10分程度ですが、電車に乗っての往復を考えると、なかなか行きにくかった。
- ・最近のサービス向上の方策として、開館時間の延長や返却ポイントの増、育児の方を対象とした無料宅配サービスの実施等については、利用増につながっていると思う。
- ・利用者アンケートで、子どもが騒いでいる時は迷惑という意見があがっていますが、親としては、少しぐらい騒いでも許容範囲という雰囲気があるとありがたい。
- ・絵本がたくさん並んでいます、子どもをいっしょに連れて行く場合、ゆっくりと選ぶ時間が無いので、表紙が前に並んでいる形や平台で選べるようにしてもらえるとありがたい。

[利用者アンケート結果を見て感じたこと、広聴カードの回答等について]

(委員)

- ・利用者アンケートで、山本南分室について、「だんだんよくなっているように思う。さらによくなるよう希望します。」という意見があがっていますが、この意見の内容は、すべての図書館施設に通じることだと思っています。
- ・それから、気になった点は、話題の新刊本について長い間待たないと利用できないことに対する意見があがっていますが、貸出期限等に何らかの工夫ができないかと思う。
- ・例えば、レンタルビデオ店では、人気のある作品は本来の期限より短くして1泊2日に

して、多くの人に見てもらえるような工夫をしている。

- ・期限を短縮しなくても、「多くの方が待っておられるので、読後はできるだけ早くお返しください」といった内容のお願いの紙を貸出時に入れば、配慮がなされて早めに返却されるのではないかと思う。
- ・あと、広聴カードでの、においに関する注意事項に対する意見ですが、意見を出された方は、人権意識の高い方で、言葉の使い方が繊細な方で、りっぱな意見だと感じた。
- ・利用者アンケートで、西図書館の窓口対応に対して、厳しい意見が出されていますが、真摯に受け止めなければならないと思う。たまたま意見を出された方だけの思いなのか、複数の方が感じていることなのかはわからないが、言葉の使い方がより一層大切であり、改めるべき所は改めて、能力の向上を図ってほしい。

[新刊本の貸出期限等について]

(委員長)

- ・新刊本の貸出期限については、どうですか。

(事務局)

- ・予約待ち人数が多い場合では、100人から200人位の予約待ち状況の例もあり、2週間の貸出期限で回転すると半年以上になるので、どうにかならないかという意見が出てくるのも理解できます。
- ・予約がついている本には、貸出の時に、「予約がありますので、返却期限をお守りください。」というお願いのしおりを付けて周知をしています。

(委員長)

- ・図書館によっては、予約待ちが多い場合、貸出期限を1週間にしている所もあります。
- ・期間短縮は、複本がたくさんあっても、利用者に行き届かない状況に対する解決策だと思いますが、2週間を1週間に短縮した図書館でも、特に利用者からの苦情等はなかったと聞いています。
- ・利用者に、貸出期限を守ってもらうことについて依頼する場合においても、一方的な表現ではなく、利用者の気持ちを踏まえた表現にした方がいいと思う。

(委員)

- ・本の内容やページ数によっても異なるが、貸出期間が1週間では、読み切れない場合もあると思う。
- ・図書館の都合で、貸出期限についての注意事項等が付いていると思われるのではなく、利用者全体のことを考えた上での取り扱いであることを、利用者に理解してもらえる表現にした方がいい。
- ・例えば、予約待ちの方が多くて、できるだけ多くの方に利用していただくためにご協力ください等の表現はどうでしょうか。

(委員)

- ・利用者へのお願いのしおり等については、目立つ色の用紙を使ったらどうか。

(事務局)

- ・利用者が、お願いのしおりを抜いてしまう場合も、見受けられますが、利用者の善意に訴えかけて、理解してもらえるような内容で、文言等については検討したい。
- ・課題図書については、貸出期限を1週間に短縮して、早く回転するようにしているが、利用者からの苦情等はありません。

[事務執行等評価及び人的体制について]

(委員長)

- ・教育委員会事務執行等評価に関してですが、教育委員及び外部評価者によるヒアリング実施後の意見としてあげられている内容で、「学校図書館の一般開放」については、安全面の確保等の課題もあり、現状では難しいと思っています。
- ・また、「アウトリーチの姿勢」についてですが、関係者に図書館施設へ来てもらって、図書館司書を講師とした研修等はこれまでも実施されているが、司書職員が図書館施設の外へ出て行って諸活動をする場合には、現在の職員の人数では足りないという点が大きな課題である。
- ・外部の施設での活動を考えた場合、アルバイト職員だけでは難しい面があり、可能であれば正規司書職員を増やしてほしいと思う。
- ・図書館サービスの向上には、人的体制の整備も必要だと思う。
- ・外部評価者には、宝塚の特長や図書館の現状について、十分説明を行う必要があると思う。

(事務局)

- ・宝塚の状況等については、今後のヒアリング時にも、十分説明はしていきたいと思っています。
- ・本市の図書館施設は、現在、2館2分室で、施設を増やせないならば、代替案として、学校図書館の一般開放ということの提案だと思っています。
- ・新年度予算案で、教育費は前年度より8%の増となっていますが、中学校への防犯カメラの設置や夜間の学校管理の外部委託等によるもので、図書館の管理運営事業については、ほぼ前年度並で、図書館の人員増には至っていません。
- ・職員体制の現状についてですが、中央図書館、西図書館とも、正規職員の退職者（注：中央図書館1名、西図書館1名）の不補充が長期間（注：中央図書館は平成19年度以降、西図書館は平成18年度以降）続いています。
- ・これまで、正規職員の補充の要望は行っていますが、職員数については、市の「定員適正化計画」により、総数削減の方針ですので、厳しい状況が続いています。
- ・西図書館では、正規職員の不補充の対応として、アルバイト職員の配置を要望していますが、実現には至っていません。
- ・平成22年に策定した「サービス向上計画」の実施状況を見ると、ハード面や人的体制が課題となるもの以外は、ほぼ実施できたと認識していますが、今後、利用者から求め

られる要望も増えていくと予想され、人的体制の整備も必要だと思う。

- ・ 正規司書職員（注：中央図書館 8 名、西図書館 6 名）の年齢を見ると、平均が約 42 歳で、新たな採用がなければ、10 年後には平均が 50 歳を超える状況が想定され、若年層の職員の採用が望まれる。

（委員長）

- ・ 人員の増がない体制で、これまで新しいサービスも実施している点は評価したい。
- ・ 内部努力や創意工夫の範囲で実施できている部分もあると思うが、人員が減となっている状況下で、以前よりもサービス全体の質が上がり、量も増えており、人的体制の整備が必要であると認識している。
- ・ また、文化都市の宝塚から発信できるサービスも考えて欲しい。

（事務局）

- ・ アルバイト賃金については、現状、市全体として一定の金額が予算措置されていると認識していますが、他の行政分野との関連もあり、図書館の人員増にはつながっていません。
- ・ 本日の図書館協議会で出された、人員についての意見・要望等については、教育委員会に十分伝えたいと思います。

（7）その他

特になし。

5 閉会